

野菜の作業

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・二十日ダイコン ・コマツナ ・シュンギク <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・イチゴ <p>など</p>	<p>ホウレンソウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸性土壌では生育が悪いので、土壌pH6.5を目標に石灰を散布する。 ・種子は、畑が乾きすぎても、湿りすぎても発芽不良を起こす。 ・連作をすると立枯性の病害発生が多くなる。 ・一斉発芽させることが栽培のポイントです。 <p>収穫のめやす 冬は60日を目安に</p> <p>病害 ホウレンソウケナガコダニの対策として、高温に弱いため、作付前までに高カロリーのガスバーナーでの「土壌表面焼き」で、被害軽減を図れる。</p> <p>品種の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量性 半立性でボリューム感があること ・秋播きの適正品種 ハンター、サンフレッシュ
	<p>収穫</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・ネギ ・ダイコン ・チンゲンサイ ・野沢菜 ・長芋 <p>など</p>	

野沢菜の収穫

夏の終わりに播いた野沢菜は、そろそろ収穫を始める時期になります。大きく育った野沢菜は、少し寒さに当たった方が甘味が増して、歯ごたえも柔らかくなります。霜に2～3回当たってから収穫します。雪が積もると茎が折れてしまうので取り遅れないように気をつけましょう。

冬野菜の貯蔵

収穫したダイコンは葉を短く切って、もう一度畑に埋め戻しておきましょう。ダイコンの長さより少し深めに穴を掘って、稲わらを敷き、ダイコンをやや斜めに並べます。上に稲わらを乗せ、土を戻します。土が凍みるとダイコンも凍みてしまうので、やや厚めに土を被せます。埋めた所がわかるように、棒を立てて目印にしましょう。

ハクサイ

切り口を上に向け、1週間程度日に当ててから新聞紙3枚ほどでしっかりと包み、切り口が下になるようにして物置など冷暗所で貯蔵します。

ホウレンソウ

東洋種・・・葉の切れ込みが深くとがった形をしています。アクが少なく、お浸しにしてもおいしい。

西洋種・・・葉は切れ込みがなく丸みを帯びていて、少し厚みがある。あくが強くソテーなどして、魚料理の付け合せに向いています。

今市場に出回っているもののほとんどは、上記の交雑種で、両方のいいところを残しています。それでも、葉に切れ込みが少しあり東洋種に近いものと、ほとんど切れ込みがない西洋種に近いものがあるようです。

豆の種類

ライマ豆



ライマ豆はインゲンマメの一種で、ペチャ豆だとかライ豆とも言われており、製餡の原料などに用いられます。**ライマ豆には、高濃度のシアン化合物が含まれている場合があり、自主検査により、シアン化合物が検出されないことを確認したものしか生豆として販売することができません。**また、ライマ豆（ペチャ豆）は花豆と比べて、厚みが薄く、花豆にはない放射状の筋があること、模様も異なっていることなどが主な相違点です。

そらまめ



さやが空を仰ぐように上に伸びることからこの名が付いたといわれます。大きめのさやの中には豆が2~4個入っていて、その豆が未熟なうちに食べるもの。豆が完熟したものは種実用として乾燥させ、おたふく豆や煮豆などに加工されます。

さやいんげん



いんげん豆を若採りしてさやごと食べる野菜です。さやいんげんは「どじょういんげん」や「モロッコいんげん」などのように、さやごと食べるのが大きな特徴です。甘納豆などに使われる「金時豆」や「大福豆」「紫花豆」などもいんげん豆の仲間ですが、これらはさやの中の豆だけを食べます。一方、さやいんげんは「いんげんまめ」や「いんげん」などと表記されることもあり、関西地方では3度収穫できることから「さんどまめ」という別名もあります。

写真は千葉県 HP より引用

花豆



インゲン属の中の「べにばないんげん」のことを言います。「いんげんまめ」とは別種ですが、主産地の北海道では、蔓性で支柱が必要など栽培方法が似ている大福豆や虎豆とともに「高級菜豆」と総称されています。

うずらまめ

豆の形は円筒形、表皮は淡褐色の地に赤紫色の斑紋が入ったいんげんまめで、その名は種皮の模様が鶉（うずら）の卵に似ていることに由来します。

えんどう

若いさやを食用とする「さやえんどう」さやえんどうの代表は「絹さや」で未熟な豆を利用する「実えんどう」実えんどうの代表は「グリーンピース」完熟した豆を乾燥させて利用する「えんどう」です。

あさつゆ

電話番号：41 - 1062

FAX：41 - 1063

技術事項協力

上小農業改良普及センター：電話番号 25 - 7156

FAX 23 - 2161